

環境影響調査

絶滅の危機に瀕(ひん)する
イヌワシやクマタカなどの猛禽
(きん)類が、巨大公共事業な
どにより生息を脅かされる事例
が増え、希少な野生生物の保護
が開発かを巡り、全国各地で論
争が起きています。



鬼石町長

せきぐち しばき
関口 茂樹

鬼石町鬼石

視点

エコリンクン 27

査と成果を踏まえて整理し、ハ
ツ場ダム事業への理解を求めて
います。

愛知県瀬戸市で開く二〇〇五
年日本国際博覧会(愛知万博)
は「自然との共生」がテーマで
す。四月に会場予定地の「海上
(かいしよ)の森」(五百四十
畝)で、絶滅の恐れがあるオオ
タカの営巣が確認されました。
日本自然保護協会などから「自

大部分は建設省のパンフレッ
トや災害に関する書物等で
に公にされ、目新しいものは特
にありませんが、環境保全対策
の調査結果に関する記述は、初
めて目にするものが多く注目に
値します。

ハツ場ダム建設予定地周辺に

ハツ場には生息しています。
そのほか環境保全上で重要と
思われる動植物は四十九種。ハ
ツ場周辺は想像をはるかに超え
て、生物の多様性を保ち、人と
自然が共生した他に類を見ない
ほどの自然豊かな環境です。
環境アセスメント法が六月か
ら施行となった今、動植物の宝
庫のようなハツ場に対し、建設
省の環境アセスは十分と言える

ハツ場の動植物を守れ

然豊かな里山を守れ」と強く批
判を受け、とうとう愛知県は、
近隣の愛知青少年公園(二百畝)
に施設の一部を移す分散開催に
追い込まれました。計画の変更
です。
今年八月、建設省は「ハツ場
ダム建設事業」という九十ページ
ほどの報告書を出版しました。ダ
ムの必要性や効果、生活再建対
策などについて、これまでの調

生息する動植物のうち、絶滅の
恐れのある野生生物として環境
庁のレッドデータブックに記載
されているものが、植物五十二
種、哺乳(ほ)乳類二種、鳥類十
一種、陸上昆虫類一種の計六十
六種にのぼることが明らかにさ
れています。精悍(せいかん)
な姿が愛され、絶滅の危機が心
配されるイヌワシ・クマタカ・
オオタカなどの猛禽類も当然、

でしうか。
報告書は「建設省所管事業に
かかわる環境影響評価に関する
当面の措置方針について」(昭
和五十三年建設省事務次官通
達)に基づいて調査を実施し、
六十年十二月に環境アセスメン
トについては完了し、平成五年
度より本格的な工事に着手し
た、と記しています。ちなみに
猛禽類調査は平成七年から十年

に実施です。
これらのことから建設省は、
自主規制的な環境影響評価は実
施したが、法律に基づくそれは
実施していない、ということに
なります。特に猛禽類に至って
は、調査なしで本格的工事に着
手していたのです。
この十年、自然保護や環境に
対する国民の意識は大きく変わ
りました。環境に関して猛禽類
がほかの鳥より問題にされるの
は、ワシやタカが食物連鎖の頂
点にあり、その保護が生態系全
体の保護を意味すると思われる
ているからです。生態系の保護、
それは人間の保護以外の何もの
でもありません。
早大法学部卒。町議から86
年に町長となり、現在4期目。
県町村会副会長、国道も鉄道
もない市町村全国連絡協議会
長、ダム所在市町村全国協議
会副会長、同県支部長、全国
山村振興連盟副支部長など
を務める。53歳。